

88 《聖マタイの召命》

服装によるグルーピング

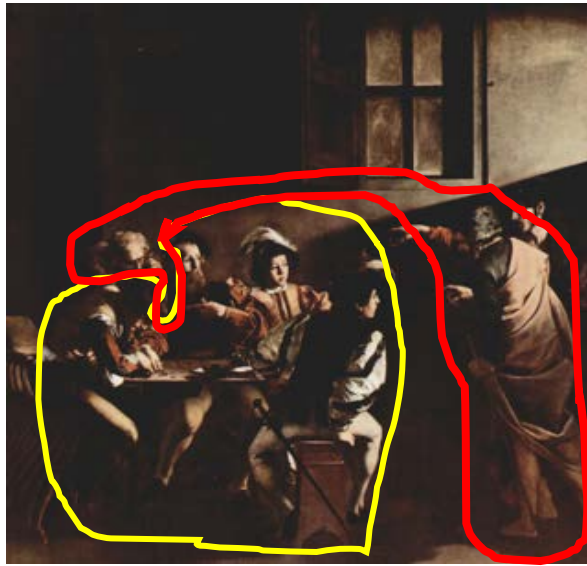
2013・2024

真鍋友範

1 登場人物服装の観察

登場人物の服装を比較観察することでも、眼鏡の収税史（マタイ）は、イエスや弟子ペテロと近似の服装であることが分かる。

つまり、カラヴァッジョは、意図的に眼鏡の収税史（マタイ）を近くの周囲の人物から区別して描いている。



- *眼鏡の収税人（マタイ）は、テーブル周辺の人物たちの服装とは違う、イエスの弟子ペテロの服装に近い、地味な雰囲気的人物だ。
- *当世風の衣装をまとう人物群（イエローの枠内）

何故なのか。考えられる理由は、召命の動作が完了した後、イエス一行に従う人物として服装においても違和感のない人物像を、カラヴァッジョがイメージしていたからだろう。

特に、弟子ペテロとの比較において、最も服装がピッタリと一致する人物は、メガネの収税史である人物だ。

もう一度しっかり人物相互の服装を眺めていただくと、納得できるはずだ。え

カラヴァッジョは、召命された収税吏マタイが、イエス一向に追従する場面のイメージを描いていたに違いない。

その際の聖マタイの服装は、決して流行の派手な衣装ではなく、イエス一向の弟子の服装に溶け込む違和感のない服装なのだ。